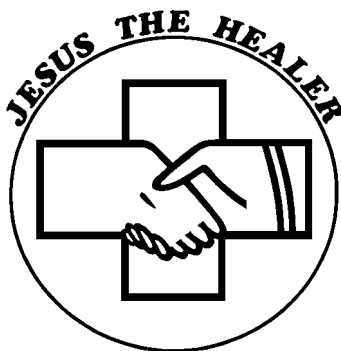


臨床パストラルケア

研修会案内



病む人と家族、その友人及び

保健・医療・福祉等スタッフへの

スピリチュアルケア

臨床パストラル教育研究会

事務局

住所：〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜 4-4-36

TEL : 080-4356-3911 FAX: 0467-24-5383

認 定 資 格

スピリチュアルケアを行うに十分な能力、
およびバランスの取れた堅実な性格を有し

自他のスピリチュアルな面を重要視し、育成し、
哲学、神学的に裏付けられた、

固有で健全な信念と、
人生観、および世界観を持ち

さらに心理的な基礎(資質)を持っている者

目 次

第1章 臨床パストラルケアについて	6
1-1. 臨床パストラルケア研修	
[1]臨床パストラルケアとは	
[2]スピリチュアルケアとは	
[3]臨床パストラル・ケアワーカー／カウンセラーとは	
[4]臨床パストラル教育研究会とは	
[5]臨床パストラルケア研修会の目的	
第2章 研修体系全般	9
2-1. 研修の体系と研修課程	
2-2. 各課程における研修科目	
2-3. 研修会の流れ	
第3章 一般研修会	12
3-1. 一般研修会の種類	
[1]研修科目と受講料	
[2]一日研修会の内容	
[3]オリエンテーション・ワークショップ	
[4]科目 I および 科目 II の内容	
[5]哲学・神学養成講座	
[6]研修受講条件と申し込み方法	
第4章 資格認定課程	13
4-1 資格認定課程の種類	
4-2 資格認定課程の研修科目	
4-3. 提出書類一覧表	
第5章 臨床パストラル・ケアワーカー資格認定課程	14
5-1. ケアワーカー課程の必須科目	
[1]オリエンテーション・ワークショップ	

- [2]科目Ⅰの内容
- [3]科目Ⅱの内容
- [4]科目Ⅲ～科目Ⅴ
- [5]哲学・神学養成講座

- 5-2. ケアワーカー資格認定課程の申込み条件と申込み方法、支払方法
- 5-3. ケアワーカー課程認定受講の受講課題
- 5-4. ケアワーカー課程認定受講前の課題
- 5-5. ケアワーカー課程認定受講中の課題
- 5-6. ケアワーカー課程認定受講後の課題
- 5-7. ケアワーカー資格認定
 - [1]ケアワーカー資格認定申請
 - [2]資格審査

第6章 臨床パストラル・カウンセラー資格認定課程23

- 6-1. カウンセラー資格認定課程の必須科目
- 6-2. カウンセラー資格認定課程の申し込み条件と申し込み方法
- 6-3. カウンセラー資格認定課程 受講課題
- 7-4. カウンセラー資格認定課程 受講前提出書類
- 7-5. カウンセラー資格認定課程 受講中の課題
- 7-6. カウンセラー資格認定課程受講後の課題
- 7-7. カウンセラー資格認定
 - [1]カウンセラー資格認定申請
 - [2]資格審査

第7章 ケアワーカー／カウンセラー資格認定の更新27

- 7-1. 資格認定の更新
 - [1]資格認定更新条件
 - [2]資格認定更新方法と認定更新料

第8章 各研修の内容(シラバス)29

ケアと法律

- 8-1 科目Ⅰ:人間関係とコミュニケーション、傾聴
- 8-2 科目Ⅱ:価値観の明確化
- 8-3 科目Ⅲ:スピリットとスピリチュアル・スピリチュアルな痛みとスピリチュアルケア
- 8-4 科目Ⅳ:哲学的・神学的・宗教的人間論
- 8-5 科目Ⅴ:心理学的・哲学的・神学的／宗教的人格の統合

第9章 参考資料35

- 9-1 問合せ先・各種申し込み先
 - [1]研修の申し込み先及び、提出資料提出先
 - [2]研修に関する情報の入手方法
 - [3]各事務所への問合せ先
 - [4]実習病院・施設所在地
- 9-2 研修担当者
- 9-3 教材
 - [1]研修会使用教材
 - [2]教材の入手方法
- 9-4 提出物について
- 9-5 ブックレポートの書き方
 - [1]作成の仕方

別紙38

- 別紙1 臨床パストラルケア研修会 受講申込書(科目 I ~ V・臨床実習・スーパービジョン)
- 別紙2 資格認定課程 選択通知書
- 別紙3 資格認定研修会受講契約書(科目 I ~ V・臨床実習・スーパービジョン)
- 別紙4 資格認定申請書
- 別紙5 リーディングリスト

裏表紙 ログマークの意味

第 1 章 臨床パストラルケアについて

1-1 臨床パストラルケア研修

[1] 臨床パストラルケアとは

「臨床パストラルケア」はパスター(羊飼)が羊を親身になって世話をするように、人々をケアするというところから由来した言葉です。患者と家族、その友人及び医療従事者のスピリチュアルな痛みやニーズに寄り添うことです。

WHO(世界保健機関)が編集した「がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア」では、がんの患者のニーズを四つあげています。それは、身体的、心理的、社会的とスピリチュアルなニーズです。スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)はこれまで日本の医療現場ではあまり充分には取り上げられていませんでした。ですから、臨床パストラル・カウンセラーが専門職として従事している医療施設は非常に僅かしかないのが日本の現状です。

[2] スピリチュアルケアとは

人は身体的、精神的な病気になったとき、あるいは死を意識したときに、心に問いかけるでしょう。

- * なぜ、自分がこんな病気になったのだろうか
- * どうして、自分ばかり苦しいことが多いのだろうか
- * こんな状態で、これから何の為に生きて行けば良いのだろうか
- * 死ぬことは怖いがどうすればいいのだろうか
- * 死んだらどうなるのだろうか
- * 自分の人生の意味は何だったのだろうか
- * これまで一生懸命生きてきて、なぜこんな目に合わなければならないのか
- * 家に帰ることができるのだろうか。家族は受け入れてくれるのだろうか等々

このような患者の実存的な問いかけ＝スピリチュアルな痛みやニーズ、に働きかけて援助をしていく人を、臨床パストラル・ケアワーカー(又は、臨床パストラル・カウンセラー)と呼びます。これらの問いかけは人間誰しもが抱えています。スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)を提供するにはそれらの問いかけにぶつかり、探求し、健全な解決へと絶え間なく働きかけることです。言い換えれば、スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)とは、スピリチュアルなニーズや痛みを聴き、把握し、明確にし、患者が自分の中にそれに対処していく力を見出せるように援助する行為です。

人は誰でも、比較的元気なときですらスピリチュアルケア(臨床パストラルケア)を必要とすることがあります。病気のときとは限らず、人生のさまざまな危機に直面し、大きな困難を抱えているとき、なおのことスピリチュアルケア(臨床パストラルケア)を必要とします。そのようなケアを提供してもらえることは、人生の諸問題に健全に対処していくために、大きな支えとなります。

人間のこのような究極的な課題に関するスピリチュアルケア(臨床パストラルケア)には、身体的ケア、心理的ケア、社会的ケアと同様、或いはそれ以上に専門的教育と訓練が要求されます。

[3] 臨床パストラル・ケアワーカー／カウンセラーとは

人が病気になったとき、身体のケアは主に医師、看護師が、精神的、心理的ケアは主に臨床心理士が、社会的ケアは主に医療ソーシャルワーカーが、そして心・霊・魂＝スピリチュアルケアは、臨床パストラル・カウンセラーが主に行うという、チームケアが要求されます。

「パストラルケア」という言葉は、もともと、キリスト教で牧師や神父が自分の担当の信者たちをお世話するときに、使用していました。それが、近年、病院で専門的に使用されるようになったとき、対象が広がり、すべての患者およびその家族が対象となりました。そのため、専門的な教育が必要となり、CPE=CLINICAL PASTORAL EDUCATION が組織化され、特別に訓練を受けた専門家がその任に当たるようになりました。この外来語の「パストラルケア」が直接さしているのは、「スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)」であり、日本的に言えば「心のケア」と言えるでしょう。

欧米の医療施設には、臨床パストラルケア部が必ず設置されています。日本では、ホスピスを含めて、スピリチュアルな領域のニーズに対して、専門的ケアが必要であるという意識は未だに薄く、スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)は日本の医療の現場や社会においてにその位置が確立されていないと言っても過言ではないでしょう。

「心理的ケア」と「スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)」は簡単に切り離せるものではありませんが、スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)は医学上の治療や心理療法を受ける対象にならない魂や霊といった内的(スピリチュアル)な問題に対応していきます。

臨床パストラル教育研究会では、主に病院のボランティア等として患者訪問を行ってスピリチュアルケアを行う人を臨床パストラル・ケアワーカー、専門職として働く人を臨床パストラル・カウンセラーと呼んで、それぞれのための研修と資格の認定を行っています。

[4] 臨床パストラル教育研究会とは

臨床パストラル教育研究会(以下当団体)とは、病気をはじめ人生の様々な危機に直面している人とその家族、友人及び医療従事者など、スピリチュアルな痛みやニーズを抱えている人々が、スピリチュアルケアを受けられる社会の実現を目指して、1998年1月に発足しました。2008年8月には特定非営利活動法人(所謂、NPO法人)として東京都から認証され2020年9月まで活動し、現在は任意団体として運営しています。

2023年3月現在までに延べ1,000人以上の方が研修を受講され、70名以上の方が臨床パストラルケア・カウンセラーの資格認定を受けました。

[5] 臨床パストラルケア研修会の目的

当団体は臨床パストラルケアの教育を、研修会を通して行いながら、臨床パストラル・ケアワーカーおよび臨床パストラル・カウンセラーの資格認定を行っています。さらに臨床パストラルケアの研究、普及を目的とした諸活動も行っています。

当団体が主催する研修では、病んでいる人、スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)を必要としている人々に対して、人間としての尊厳と権利を擁護し、育ってきた環境、文化などを十分に考慮しながら、またそれらの人々が信じる宗教や異なる信条、信念を尊重することができる人材の育成を目的としています。

臨床パストラル・ケアワーカーおよび臨床パストラル・カウンセラーとして、次のような人材を育成します

- * 自他のスピリチュアルな面を重要視し、それを育成する自分自身の信念、人生観、及び世界観を持つよう堅実に努力する人
- * 現実的で健全な**信念**や信条を有し、基礎的な心理学の素養を持つ人
- * 心理学的、哲学的、神学的に統一された人格を持つ人
- * スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)に携わることに**使命感**を持つ人

医療に携わる方が誰でもスピリチュアルケア(臨床パストラルケア)ができるわけではなく、全人的(哲学的、宗教的を含む)基盤の上に立ったしっかりとした教育を受ける必要があります。ホスピスなど、スピリチュアルケアが特に重要である医療現場で働く医療従事者のためには、要請に応じて個別に研修会を企画、実施もいたします。



第2章 研修体系全般

2-1 研修の体系と研修課程の選び方

臨床パストラルケア研修会には、次の3つの種類がある。

◆ 一般研修会

資格に関係なく、スピリチュアルケア(臨床パストラルケア)に関心があり勉強したいと考えている方や、病気や様々な困難に直面している家族や親しい友人などと意義ある関わりを持ちたいと考えている方などにお勧めできる研修会。なお資格認定を受けた方もフォローアップ研修として受講できる。

◆ 臨床パストラル・ケアワーカー資格認定課程

病院ボランティアとして登録し、患者訪問などを行う目的を持つ人のためのコース。
規定の研修受講後、ケアワーカー資格申請を行い、審査の結果パストラル・ケアワーカーの資格を取得することができる。

◆ 臨床パストラル・カウンセラー資格認定課程

臨床パストラルケア専門家として働くことを目的とする人が受けるコース。
日本では、専門職種として認めている医療施設は数少ないが、それを目指す人のための課程。
規定の研修受講後、カウンセラー資格申請を行い、審査の結果パストラル・カウンセラーの資格を取得することができる。

※ 以下、臨床パストラル・ケアワーカー資格認定課程は「ケアワーカー課程」、臨床パストラル・カウンセラー資格認定課程は「カウンセラー課程」と略する。

2 - 2 各課程における研修科目

2022. 11. 29 修正

2023 年 4 月より

科目名	日数	申込締切	一般課程	課程 ケアワーカー 一課程	カウンセラ	参加費
一日研修	1	1週間前	△	△	△	3,000
ケアと法律	1		△	○	○	2,000
オリエンテーション・ワークショップ ※	1		△	○	○	2,000
科目Ⅰ：人間関係とコミュニケーション・傾聴 ※	3 金・土・日 ※祭日含	2週間前	△	○	○	3万円 (1万/日)
科目Ⅱ：価値観の明確化 ※	3 金・土・日 ※祭日含	2週間前	△	○	○	
科目Ⅲ：スピリットとスピリチュアル・スピリチュアルな痛みと叫び・スピリチュルケア	3 金・土・日 講義/演習中心	2週間前		2科目選択	○	
科目Ⅳ：哲学的人間論・神学的、宗教的人間論					○	
科目Ⅴ：心理学的、哲学的、神学的/宗教的人格の統合					○	
臨床実習・スーパーヴィジョン 1	3 平日				○	3万円 (1万/日)
臨床実習・スーパーヴィジョン 2					○	
臨床実習・スーパーヴィジョン 3					○	
哲学・神学講座 ※	5	*		30h	60h	

資格取得者・研修中・その他

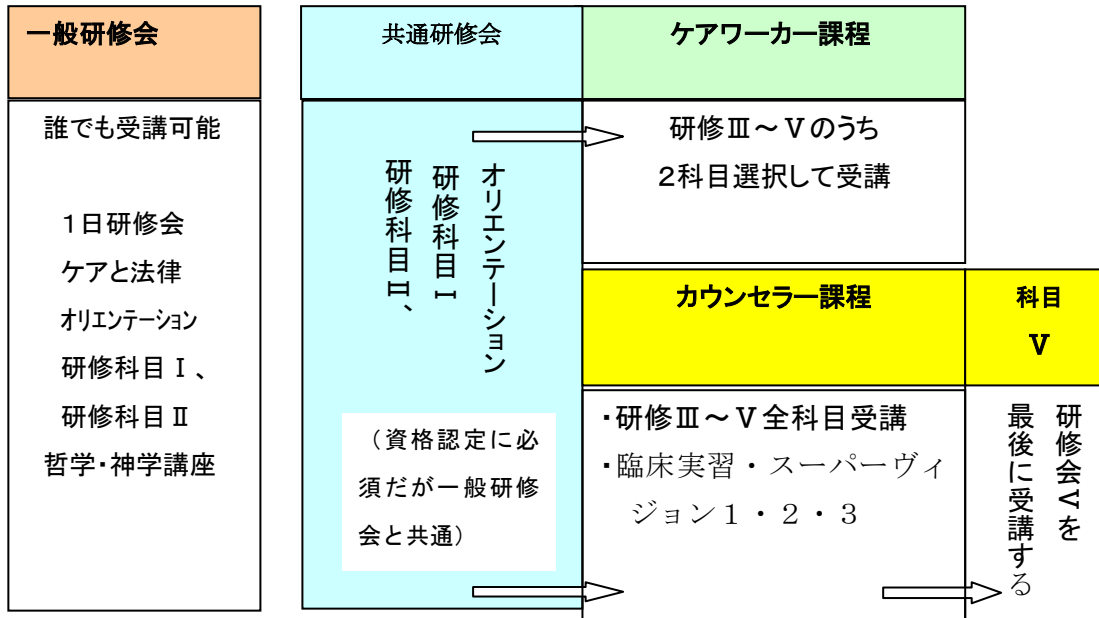
内容	基準	費用	備考
ブックレポート	5冊 (研修中に)	2,000円 (5冊分)	5冊一括払い
スーパーヴィジョン	2名以上/年	2,500円/1事例	

フォローアップ研修	1日/年	5,000円	
資格更新	5年毎	30,000円	・資格認定書 更新 ・IDカード 付与

※誰でも受講可能
ることがあります。
* 瞑想体験が全てのプログラムに含まれます。

* △：参加可能、○：資格取得のために必修 * 対面及び zoom 講義の両方が組み合わせられ

2-3 研修会の流れ



哲学・神学講座：必修時間数はケアワーカー課程30時間、カウンセラー課程60時間

第3章 一般研修会

3-1 一般研修会の種類

[1] 研修の種類と受講料

科目	研修日数
* 一日研修	1日
ケアと法律	1日
* オリエンテーション・ワークショップ	1日
科目Ⅰ：人間関係とコミュニケーション・傾聴	3日
科目Ⅱ：価値観の明確化	3日
哲学・神学講座	Zoom 講義・レポート

※開催スケジュールは会報またはホームページでご確認いただくか、事務局へお問い合わせください

※*のついたものは各地域等により異なる場合がありますので、事務局へお問い合わせください

*受講料：1日研修(5000円)、オリエンテーション(2000円)、研修科目ⅠとⅡ(30,000円)、他の研修会は講義・臨床実習・SVの受講料が分かれる。

* は一般研修会 は共通研修会

[2] 一日研修会の内容

さまざまなテーマで各地域において行われる。会報やホームページまたは案内チラシなどで確認、あるいは、事務局にお問い合わせください。スピリチュアルケアの普及が目的である。これらに参加した場合、受講終了書を発行する。

(参考) 一日研修会テーマの例

- a) 大切にすること／されること b) 信頼すること／されること c) 信じること／信じられていること d) 不思議がること・感受性 e) 沈黙・静けさ・瞑想 f) 希望 g) 期待すること／されること h) 尊敬すること／されること i) 理解すること／されること j) 苦しむこと／苦しませること k) 赦すこと／赦されること l) 自由と束縛 m) 平安・平和 n) 天命・生きがい/LifeWork o) 価値観 p) アイデンティティ q) 安定・安心・安全 r) 幸せ s) 人生終わること／死亡／喪失 t) 生きること

[3] ケアと法律

ケア提供者として臨床の現場におけるパワハラ、モラハラ、セクハラについて、職業倫理を踏まえて学ぶ。

[4] オリエンテーション・ワークショップ

スピリチュアルケアを理解するための一般研修会と同時に資格認定課程研修会への導入のワークショップである。一般研修会としても参加できる。参加証を発行。

[5] 科目Ⅰ および科目Ⅱ

スピリチュアルケアを知るための一般研修会と同時に資格認定課程研修会への導入の研修会である。一般研修会として受講する場合でも受講契約書（別紙 3）を提出する。

第 5 章 資格認定課程 5-1-[2]と[3]の項を参照

[6] 哲学・神学講座

カトリック神学院主催の「哲学・神学講座」の講義を紹介する。全研修会受講後でなくても受講できる。

※ご希望の方は事務局まで資料をご請求ください

5-1-[5]-(1)～(3)の項を参照

[7] 申込み方法

一般研修会はどなたでも受講できるが、この研修会は個人の心理療法ではなく、他の方のケアを目指す研修会のため、精神的疾病の治療を受けたことなく、現在心理療法、精神療法治療中でないこと、また、認知的機能が良好であること、近親者との死別6ヶ月以内ではないことを条件とする。

一般研修会として、研修科目Ⅰ及びⅡを受講する場合は、受講契約書（別紙 3）を提出する。

第4章 資格認定課程

4-1 資格認定課程の種類

- | | |
|----------------------|--------------|
| 臨床パストラル・ケアワーカー資格認定課程 | ー 詳細は第 5 章参照 |
| 臨床パストラル・カウンセラー資格認定課程 | ー 詳細は第 6 章参照 |

4-2 資格認定課程の研修科目

オリエンテーション・ワークショップ

研修科目Ⅰ：人間関係とコミュニケーション、

研修科目Ⅱ：価値観の明確化、

研修科目Ⅲ：スピリチュアルケア 臨床実習・スーパーヴィジョン1

研修科目Ⅳ：哲学・宗教・神学的人間論 臨床実習・スーパーヴィジョン2

研修科目Ⅴ：心理学・哲学・宗教・神学的人格の統合 臨床実習・スーパーヴィジョン3

科目Ⅰ～Ⅴ内容については後記の第 8 章シラバス (p29)を参照。

哲学・神学講座

第 5 章-1-[5] (p16) を参照

4-3 提出書類一覧表

ケアワーカー課程研修前	ケアワーカー課程研修中	受講後	
会員申込み 資格認定課程の申込 研修申込み書:(チラシ) 受講契約書(別紙3) 提出書類:申込時の書類 教材:事前購入 予習:あり	訪問記録スーパービジョン: 各研修2回 グループ面接: 3回 個人面接:1回 人生の分かち合い: 1回 感想文、目標達成確認:毎回 ブックレポート: 3冊	スーパービジョン: 4回 訪問記録提出: 10回 ジャーナル 自己評価 生きている木 ワークブックの完成 資格認定申請	哲学・神学講座 ・受講30時間 要証明 (当団体企画神学講座の場合は・申込書・レポート)
→		→	
カウンセラー課程研修前	カウンセラー課程研修中	受講後	
会員申込み 資格認定課程の申込 研修申込み書:(チラシ) 受講契約書(別紙3) 提出書類:申込時の書類 教材:事前購入 予習:あり	訪問記録スーパービジョン: 各2回 グループ面接: 4回 個人面接: 2回 人生の分かち合い: 2回 感想文、目標達成: 毎回 ブックレポート: 5冊	スーパービジョン: 6回 訪問記録提出: 10回 ジャーナル 自己評価 生きている木 ワークブックの完成 資格認定申請	哲学・神学講座 受講60時間 要証明 (当団体企画哲学・神学講座の場合は・申込書・レポート)
→		→	

ただし、科目 III～V は、オリエンテーション、科目 I を受講した後でないと、受講申し込みできない。

科目 II～V はどの順序で受講してもよい。

※ブックレポート

第5章 臨床パストラル・ケアワーカー資格認定課程

5-1 ケアワーカー課程の必須科目

- (1) オリエンテーション・ワークショップ、科目 I、科目 II、更に、科目 III～Vの中から選択した2科目の受講及び哲学・神学受講が必須条件となる。(4科目＋神学)
ただし、科目 III～Vは、オリエンテーション、科目 Iを受講した後でないと、受講申し込みできない。
- (2) 科目 II～Vはどの順序で受講してもよい。
- (3) 哲学・神学講座の概要は、ケアワーカー課程では評価を伴う**30時間の受講**が必須。
- (4) 資格認定課程申請者は当センターの会員であること
- (5) 「ケアと法」を認定前に受講する

[1] オリエンテーション・ワークショップ

資格認定課程に進むために最初に必要な必須科目である。

資格認定課程研修会への案内・導入が目的であると同時に、適性を相互に確認し合うワークショップである。内容は以下の通り。

- a) スピリチュアルケアに関する導入講義 b) 当会研修会案内、研修病院、認定にいたる過程、事務手続きなどの説明 c) ブックレポート、教科書の説明 d) ワーク(人間関係とコミュニケーション・傾聴、など)の実施 e) 個人面接 等である。

開催日時、場所、などはホームページ、チラシ等を参照の上、お問い合わせ下さい。総合結果は、事務局から通知する。

[2] 科目 I：人間関係とコミュニケーション・傾聴の内容

オリエンテーションに続いて受講する最初の研修会で研修病院での患者訪問はない

- ・人間存在の基本的な、すなわち哲学的・信仰／宗教的(神学的)＝スピリチュアルな、基盤の理解を深める。(自分自身・他者・自然・超自然存在との関係は人間存在の不可欠な基礎と条件であること
の理解)
- ・コミュニケーションは人間関係が成り立つ手段であること
の理解
- ・基本的なコミュニケーション SKILLS の紹介および適切なトレーニング

[3] 科目 II：価値観の明確化の内容

オリエンテーション後、研修会 Vを受講する前までに受講。研修病院での患者訪問はない

- ・価値観の多様な社会において自分の価値観を明確にすることである。
- ・自分の価値観を知ることは自分自身のアイデンティティや人生の目標をも明確にするきっかけになり、「ほんもの」の人間を生み出す。
- ・人間は「ほんもの」になって初めて尊敬に基づいた、健全な成長をもたらす人間関係(社会そのもの)

を進展させていくことができる。

スピリチュアルケアを提供する時に、ホスト(H)が自分自身の価値観を把握してなければ、無意識に自分の価値観をゲスト(G)―患者さん―に当てはめるおそれがある。

科目Ⅰ及び科目Ⅱの詳細内容については各研修のシラバスの項を参照のこと。

科目Ⅰおよび科目Ⅱでは、取り組む課題(宿題)が受講前に提示される。受講の時、持参のこと。

その他受講中には、講義の想文と目標達成確認などの提出がある。

[4] 科目Ⅲ～科目Ⅴ

科目Ⅲ～Ⅴの中から選択した**2科目の受講**。(いずれも研修病院・施設での患者訪問を含む)

科目Ⅰ～Ⅴの内容は後記第8章のシラバス(p.29～)を参照。

[5] 哲学・神学講座

資格認定申請前までに(時期は問わないので)、当会が認めた教育機関で、出席証明及び評価付の講義を**30間時受講**する。評価を研修部に提出する。

全研修会受講後でなくても哲学・神学講座を受講開始できる。

- (1) 大学以外(例:地域の教会など)での神学講座は認められません。カトリック神学院などの神学講座は認められます。なお、当会は哲学・神学養成講座を開催します。また、当会の哲学・神学講座の通信講座もあります。詳細は事務局にお問い合わせください。
- (2) 神学講座はキリスト教に基づいたものですが、科目によっては仏教やイスラム教等の講座でも認められる場合があります。ただしその場合は事前に事務局に相談して、その講座が認められるかどうかを確認してください。
- (3) 哲学・神学講座の修了時、必ず受講証明書(時間数が明記してあるもの)の発行を依頼し、レポート提出、あるいは、テストなどの学習評価を受け、評価証を提出してください。
「ケアワーカー課程」は30時間受講し、評価証明を提出

5-2 ケアワーカー課程の申し込み条件、申し込み方法、支払方法

[1] 資格認定研修会の申し込み条件

資格認定課程 研修会として受講の場合はまず、会員であること。また、ケアを目指す研修会のため、高校卒業以上の学歴を有し、精神的疾病の治療を受けたことがなく、現在心理療法、精神療法治療中でないこと、認知機能が良好であること、近親者との死別6ヶ月以内ではないことを条件とする。受講契約書(別紙 3)を提出する。

[2] 資格認定研修会の申し込み方法

受講を希望する研修会の締切日前に、別紙 1「臨床パストラルケア研修会 受講申込書(科目Ⅰ～Ⅴ用)」

で事務局へ申し込む。

その後、申し込み受付の知らせと共に、予習・事前提出課題等が提示される。

[3] 資格認定研修会の受講料の支払い

- ・研修は参加人数が定員に満たない場合は開催されない。そのため、中止・変更、もしくは他の研修会に変更要請をする可能性がある。
- ・科目Ⅰ～Ⅴ研修については、研修会開催日 40 日前に、各研修会場所の受講申込順及び提出書類の状況により受講決定の通知をする。受講決定通知と共に同封する振り込み用紙で受講料を振り込む
- ・申込後のキャンセルは原則として認められない。研修会開始日の 1 ヶ月前までにキャンセルした場合は 25%、それ以降の場合は全額がキャンセル料となる。
- ・研修会受講受付は申込順等を加味して優先順位が決定されるので、なるべく早い時期の申し込みを勧める。年間計画を提示して下さい。

5-3 ケアワーカー課程 受講課題

提出書類は多種であるが、「ケアワーカー課程」、「カウンセラー課程」の共通課題が多い。ただし、課題の提出回数や受講時間数などの違いがあることに注意を払う必要がある。違いについては各項に記述する。

4-3(p14)提出書類一覧により全体概要を把握し、内容や詳細は各項目を参照するとよい。

ホームページ、及び機関紙である「スピリチュアルケア誌」に研修会の年間企画案内が掲載されるので各自年間受講企画をたて、研修部に提出する。研修会開催は参加者の人数によるので、早期に人数把握が出来ないと、参加人数不足のための中止が起こりうる。

提出物については第9章 参考資料9-4「提出物について」(p36)を参照。

5-4 ケアワーカー資格認定課程 受講前提出書類

[1] 資格認定課程選択通知書

各課程共通研修会を終了後、「ケアワーカー課程」を選択し「資格認定課程選択通知書」を事務局に提出する。別紙 2 参照

[2] 「申し込み時提出書類」の提出 (研修Ⅲの前に提出)

下記の書類を「ケアワーカー課程」の研修会受講前に提出する。

- (1) 履歴書: 市販されているものなど、一般的な書式のものを使用。
- (2) 推薦状: 恩師、信頼している方、神父、牧師などから、特に様式はないが推薦状を作成依頼し、提出する。
- (3) 受講契約書 別紙3「研修会受講契約書」に署名捺印して提出する。
- (4) 臨床パストラルケア研修会受講に関する下記質問事項への回答。(A4 用紙1枚以内にタイプし、氏名、日付、タイトルを明記して提出)

- ①臨床パストラルケア研修会を受ける動機 ②研修会を受ける目的 ③研修会に期待すること
- ④ケアワーカー課程を選択した理由
- (5) 自分の歩み： 次の質問について a)～d)全体で、A4レポート用紙 3～4 枚程度にまとめる。これは、
自分自身の歩みを見直し、受講前の準備とすために行うもの
 - a) 自分の人生で転機となった体験について、下記の発達段階に沿ってまとめる
 - ①乳児期(0～ 2才) ②幼児期(3～ 4才)③児童期(4～ 6才)④学令期(7～12才)
 - ⑤少年少女期(13～19才) ⑥青年期(20～30才) ⑦成人期(30～65才)
 - ⑧老年期(65才～)
 - b) 父親像や母親像
乳児期(0～2才)や、子供時代 (3～12才) と現在ではどのような相違があるかについて、各時期の父親、母親を現す形容詞を 3 個ずつ挙げた上で述べる
 - c) 自分の信条： 自分自身の信条(生きる基盤)について述べる
 - d) 成長の課題： 現在、自分自身について感じている問題点を取り上げ、また、それらをどのように成長の課題としてとらえているのかを述べる

[3] 教材

各科目では必要な教材(書籍、ワークブック等)があるので事前に購入
各科目で使用する教材一覧および購入方法については、第 9 章 参考資料 9-3(p.35～36)を参照

[4] 予習・事前提出課題

全科目で事前にそれぞれの内容の予習および課題の提出の必要な場合がある。詳細は受講申し込み後に送られる案内で必ず確認

5-5 ケアワーカー課程研修 受講中の課題

研修受講中に下記以外にも課題が出されることがあるので、指示に従って課題に取り組む。

[1] 受講当日

遅刻・早退は原則として認めないので、研修開始、修了時間を前もって確認しておく。

[2] 臨床実習研修後のスーパーヴィジョン

(1) 作成の仕方

訪問記録は、患者との会話の記録が主体であるが、その他の状況も記録して訪問記録とする。

記入する内容は下記の項目などである。研修後に訪問記録ひな型データが渡される。

作成に当たっては、教材の「臨床パストラルケア 訪問記録」を参照

(2) 訪問記録の内容

訪問記録においては、以下のような内容を記録する。

注) H=ホスト(パストラル・ケアワーカー)、G=ゲスト(患者さん)

① 訪問について

訪問回数、題名、Gのスピリチュアルキーワード(ニーズ・痛み・叫びなど)

② Hの訪問理由および目的

③ Gについて

病気と主訴、家族関係などバックグラウンド、Gの話し方・表情・様子など

④ 入室時の印象、病室の位置、同室者の有無など

⑤ 会話記録

その場にいない方にもHとGの様子、雰囲気、状況が伝わるように、非言語的表現も()して書く

⑥ 臨床パストラル・ケアワーカー自身の訪問中の状態

身体的・知的・心理的・スピリチュアル的状态

⑦ 感想と反省

(3) 訪問記録の回数

科目Ⅲ～Ⅴでは、1回の研修会につき原則 2 日間で6時間以上の臨床実習を行う。そのとき、作成した訪問記録について、1科目受講中に2回、スーパーヴァイザーと共に検討するスーパーヴィジョンが行われる。スーパーヴィジョンを受けた訪問記録はスーパーヴィジョン後にすみやかに、事務局へ提出する。

[3] 人生の分かち合い

「人生の分かち合い」の発表

現在まで生きてきた自己の人生を通して、人間として転機となった体験、成長への過程等の貴重な体験を意識し、具体的に書きまとめることによって自分自身の人生観、信条、信仰がより明確になることが期待できる。その歩みの旅を、スーパーヴァイザーやグループメンバーと分かち合う。

「ケアワーカー課程」受講者は最後の研修会に1回分かち合い、講評を受ける。研修後に清書原稿を事務局に提出する。

[4] 受講中のグループ面接と個人面接

個人面接は「ケアワーカー課程」受講者は**最後の研修会中**に行われる。

他の研修会受講の際にはグループ面接が行われる。

[5] 感想文、目標達成確認

なお、研修の目標達成確認を各科目研修終了時に提出する(zoom の場合は PDF にしてメールで事務局に)。感想文は帰宅後事務局に PDF にしてメールで送る。事務局に到着確認後参加証が送られてくる。

また、感想文は会報「スピリチュアルケア」誌、ホームページなどで(事前承諾の方のみ)公表される場合がある。

[6] 研修中のブックレポート

第9章 参考資料 9-5「ブックレポートの書き方」(p.37)を参照し、研修科目Ⅲ～Ⅴが修了するまでに、「ケアワーカー課程」は研修中に3冊ブックレポートを作成し、事務局出する。

5-6 ケアワーカー課程研修 受講後の課題

[1] 研修受講後の患者訪問と受講後のスーパーヴィジョン

研修中にスーパーヴィジョンを受けた訪問記録とは別に、研修後、訪問記録6回のスーパーヴィジョンを受ける。さらに、スーパーヴィジョンを受けない訪問記録10回分を直接事務局に提出する。研修受講中以外の患者訪問は原則的には自己解決であるが、それが困難な場合は、事務局へ相談する。もし、受講後のスーパーヴィジョンを受ける場合はスーパーヴァイザーが事務局に相談する。「ケアワーカー課程」認定のために必要な訪問記録の提出数：計20回

[2] ジャーナルの作成 (任意)

訪問記録の完成後、ジャーナルを書くことを勧める。ジャーナルは、訪問記録の作成および、他の病む人への訪問時、以下の点について記述する。

- a) 訪問した病む人の中でもっとも適切な関わり
- b) 訪問した病む人の中でもっとも不適切な関わり

上記の関わりについて、それぞれ以下の点を明確にする。

- ①訪問者の氏名、訪問日時、何回目の訪問
- ②病む人の氏名(記号化 Aさん)、年齢、性別、病気と主訴、家族関係など、バックグラウンドの紹介
- ③訪問中「スピリチュアルケア」の観点から試みたことおよび実際に実行したこと
- ④訪問中「自分の気持ち」の状態

[3] 自己評価の提出

臨床パストラルケア教育を受講した目的が達成されたかどうか述べる

- a) 以下の点についての受講前後の変化
 - ①自己理解に関して
 - ②病む人の理解に関して
 - ③哲学・神学における洞察について
- b) 臨床パストラルケア教育で培ったことの実行計画
- c) 最終評価を A B C D の4段階で評価し、自己採点したその理由

d) 今後の臨床パストラルケア教育についての要望を記す

[4] 生きている木

「ほんものの自分にチャレンジ」P203 ～ 205 を完成させ、コピーを提出する

[5] ワークブックの完成

ワークブック「聴く耳 みる目 理解する心」の必要ページの記入(空欄がある場合一人で可能な個所を行い)を完成させて提出する。

5-7 ケアワーカー資格認定

(1) ケアワーカー資格認定申請

① 申請条件

臨床パストラル・ケアワーカー資格認定申請のために、「ケアワーカー過程」の必須研修科目、受講前、中、後における諸課題ならびに哲学・神学講座をすべて修了していることが必要。

② 申請方法

臨床パストラル・ケアワーカー資格認定時期は5月。資格認定申請は3月末までに、臨床パストラル・ケアワーカー資格認定申請書に諸種の課題などの必要提出書類を添付して、事務局に申請する。資格認定料 20,000 円。

(2) 資格認定審査

資格認定委員会で審査し、資格認定証の発行をもって認定とする。

認定式は「臨床パストラルケア教育研究会 全国大会」で行う。

第6章 臨床パストラル・カウンセラー資格認定課程

6-1 カウンセラー課程の必須科目

- (1) カウンセラー課程では、オリエンテーション・ワークショップ、及び研修科目 I から研修科目 V までの全科目、及び哲学・神学受講が 必須。
- (2) ただし、科目 III～ V はオリエンテーション、科目 I を受講した後でないと、受講申し込みできない。
- (3) 科目 II～V どの順序で受講してもよい。科目 V は科目 I～Ⅲまでを終了後受講。
- (4) 哲学・神学講座の概要は、カウンセラー課程では評価を伴う60時間の受講が必須。
- (5) 資格認定課程申請者は会員であること
- (6) 「ケアと法」を認定前に受講する

[1] オリエンテーション・ワークショップ

資格認定課程に進むために最初に必要な必須科目である。

資格認定課程研修会への案内・導入が目的であると同時に、適性を相互に確認し合うワークショップである。内容は

- a)スピリチュアルケアに関する導入講義 b) 当会研修会案内、研修病院、認定にいたる過程、事務手続きなどの説明 c) ブックレポート、教科書の説明 d) ワーク(人間関係とコミュニケーション・傾聴、など)の実施 e) 個人面接 等である。

開催日時、場所、などはホームページ、チラシを参照の上お問い合わせ下さい。総合結果は、事務局から通知する。

[2] 科目 I：人間関係とコミュニケーション・傾聴の内容

オリエンテーションに続いて受講する研修会 I では研修病院・施設での患者訪問はない

- ・人間存在の基本的な、すなわち哲学的・信仰／宗教的(神学的)＝スピリチュアルな、基盤の理解を深める。(自分自身・他者・自然・超自然存在との関係は人間存在の不可欠な基礎と条件であること)の理解)
- ・コミュニケーションは人間関係が成り立つ手段であること)の理解
- ・基本的なコミュニケーション SKILLS の紹介および適切なトレーニング

[3] 科目 II：価値観の明確化の内容

オリエンテーション後、研修会 V を受講する前までに受講。研修病院・施設での患者訪問はない

・価値観の多様な社会において自分の価値観を明確にすることである。

- ・自分の価値観を知ることは自分自身のアイデンティティや人生の目標をも明確にするきっかけになり、「ほんもの(本物・本者)」の人間を生み出す。
- ・人間は「ほんもの(本物・本物)」になって初めて尊敬に基づいた、健全な成長をもたらす人間関係(社

会そのもの)

を進展させていくことができる。

スピリチュアルケアを提供する時に、ホスト(H)が自分自身の価値観を把握してなければ、無意識に自分の価値観をゲスト(G)―患者さん―に当てはめるおそれがある。

科目Ⅰ及び科目Ⅱの詳細内容については各研修のシラバスの項を参照のこと。

科目Ⅰおよび科目Ⅱでは、取り組む課題(宿題)が受講前に提示される。受講の時、持参のこと。

その他、感想文と目標達成確認などの提出がある。

[4] 科目Ⅲ～Ⅴ

全科目必修。 科目Ⅰ～Ⅴの内容は後記第8章のシラバス(p.29～)を参照。

※臨床実習・スーパービジョン1・2・3

[5] 哲学・神学講座

資格認定申請前までに全研修会受講後でなくても当会が認めた教育機関で、出席証明及び評価付の講義を60時間受講する。評価を事務局に提出する。

哲学・神学講座その他については 第5章―1―[5](P16)を参照

6-2 カウンセラー課程の申し込み条件、申し込み方法、支払方法

[1] 資格認定研修会の申し込み条件

資格認定課程 研修会として受講の場合はまず、会員であること。また、ケアを目指す研修会のため、高校卒業以上の学歴を有し、精神的疾病の治療を受けたことがなく、現在心理療法、精神療法治療中でないこと、認知機能が良好であること、近親者との死別6ヶ月以内でないことを条件とする。受講契約書(別紙3)を提出する。

[2] 資格認定研修会の申し込み方法

受講を希望する研修会の締切日前に、別紙1「臨床パストラルケア研修会 受講申込書(科目Ⅰ～Ⅴ用)」で事務局へ申し込む。その後、申し込み受付のお知らせと共に、予習・事前提出課題等が提示される。

[3] 資格認定研修会の受講料の支払い

・研修は参加人数が定員に満たない場合は開催されない。そのため、中止・変更、もしくは他の研修会に変更要請をする可能性がある。

・科目Ⅰ～Ⅴの研修については、研修会開催日40日前に、各研修会場所の受講申込順及び提出書類の状況により受講決定の通知をする。受講決定通知と共に同封する振り込み用紙で受講料を振り込む

・申込後のキャンセルは原則として認められない。研修会開始日の1ヶ月前までにキャンセルした場合は25%、それ以降の場合は全額がキャンセル料となる。

・研修会受講受付は申込順等を加味して優先順位が決定されるので、なるべく早い時期の申し込みを勧める。年間計画を提示して下さればありがたい。

6-3 カウンセラー課程 受講課題

提出書類は多種であるが、「ケアワーカー課程」、「カウンセラー課程」の共通課題が多い。

ただし、課題の提出回数や受講時間数などの違いがあることに注意を払う必要がある。

違いについては各項に記述する。

4-3(p14 提出書類一覧表により全体概要を把握し、内容や詳細は各項目を参照するとよい。

ホームページ、機関紙である「スピリチュアルケア誌」に研修会の年間企画案内が掲載されるので

各自年間受講企画をたて、事務局に提出する。研修会開催は参加者の人数によるので、早期に

人数把握が出来ないと、参加人数不足のための中止が起こりうる。

提出物については第9章 参考資料9-4「提出物について」(p.36)を参照。

6-4 カウンセラー資格認定課程 受講前提出書類

1] 資格認定課程選択通知書

各課程共通研修会を終了後、「カウンセラー課程」を選択し「資格認定課程選択通知書」(別紙2)を事務局提出し、資格認定コースを決める。

2] 「申し込み時提出書類」の提出 (研修Ⅲの前に提出)

下記の書類を「カウンセラー課程」の受講前に提出する。

- (1) 履歴書: 市販されているものなど、一般的な書式のものを使用。
- (2) 推薦状: 恩師、信頼している方、神父、牧師などから、特に様式はないが推薦状を作成依頼し提出する。
- (3) 受講契約書 別紙3「研修会受講契約書」に署名捺印して提出する。
- (4) 臨床パストラルケア研修会受講に関する下記質問事項への回答。(A4用紙1枚以内にタイプし、氏名、日付、タイトルを明記して提出)
 - ①臨床パストラルケア研修会を受ける動機
 - ②研修会を受ける目的
 - ③研修会に期待すること
 - ④臨床パストラル・カウンセラー資格認定課程を選択した理由
- (5) 自分の歩み: 次の質問について a)~d)全体で、A4レポート用紙3~4枚程度にまとめる。これは、自分自身の歩みを見直し、受講前の準備とすために行うもの
 - a) 自分の人生で転機となった体験について、下記の発達段階に沿ってまとめる
 - ①乳児期(0~2才)
 - ②幼児期(3~4才)
 - ③児童期(4~6才)
 - ④学令期(7~12才)
 - ⑤少年少女期(13~19才)
 - ⑥青年期(20~30才)
 - ⑦成人期(30~65才)
 - ⑧老年期(65才~)
 - b) 父親像や母親像
乳児期(0~2才)や、子供時代(3~12才)と現在ではどのような相違があるかについて、各時期の父親、母親を現す形容詞を3個ずつ挙げた上で述べる
 - c) 自分の信条: 自分自身の信条(生きる基盤)について述べる
 - d) 成長の課題: 現在、自分自身について感じている問題点を取り上げ、また、それらをどのように成

長の課題としてとらえているのかを述べる

[3] 教材

各科目で必要な教材(書籍、ワークブック等)があるので事前に購入(チラシで確認)

各科目で使用する教材一覧および購入方法については、第9章 参考資料 9-3(p.35~36)を参照

[4] 予習・事前提出課題

全科目で事前にそれぞれの内容の予習および課題の提出の必要な場合がある。詳細は受講申し込み後に送られる案内で必ず確認

[5] 研修中のブックレポート

第9章 参考資料 9-5「ブックレポートの書き方」(p37)を参照。

1冊分のブックレポートはパソコン入力し、PDFにしてメールで事務局に送付する。無理な場合プリントアウトしたものを事務局に提出する。

6-5 カウンセラー資格認定課程研修 受講中の課題

研修受講中に下記以外の課題が出されることもあるので、指示に従って課題に取り組む。

[1] 受講当日

遅刻・早退は原則として認めないので、研修開始、修了時間を前もって確認しておく。

[2] 臨床実習(患者訪問)と研修中のスーパーヴィジョン

(1) 作成の仕方

訪問記録は、患者との会話の記録が主体であるが、その他の状況も記録して訪問記録とする。

記入する内容は下記の項目などであり、研修において訪問記録用紙が渡される。

作成に当たっては、教材の「臨床パストラルケア 訪問記録」を参照

(2) 訪問記録の内容

訪問記録においては、以下のような内容を記録する。

注) H=ホスト(パストラル・ケアワーカー)、G=ゲスト(患者さん)

① 訪問について

訪問回数、題名、Gのスピリチュアルキーワード(ニーズ・痛み・叫びなど)

② Hの訪問理由および目的

③ Gについて

病気と主訴、家族関係などのバックグラウンド、Gの話し方・表情・様子など

④ 入室時の印象、病室の位置、同室者の有無など

⑤ 会話記録

その場にいない方にもHとGの様子、雰囲気、状況が伝わるように、非言語的表現も書く

⑥ 臨床パストラル・ケアワーカー自身の訪問中の状態

身体的・知的・心理的・スピリチュアル的状态

⑦ 感想と反省

* 学会認定を視野に入れている場合は一部を日本スピリチュアルケア学会認定の形式で作成して良い。形式は学会 PH 参照

(3) 訪問記録の回数

科目Ⅲ～Ⅴでは、研修後、6 時間以上を2日以上以上の臨床実習つまり、患者訪問を行う。そのとき、作成した訪問記録について、1 科目受講中に 2 回、スーパーバヴァイザーと共に検討するスーパーヴィジョンが行われる。スーパーヴィジョンを受けた訪問記録は研修後、事務局へ提出する。

提出数:「カウンセラー課程」研修中のスーパーヴィジョン(2 回×3 研修)6回

[3] 人生の分かち合い

「人生の分かち合い」の発表

現在まで生きてきた自己の人生を通して、人間として転機となった体験、成長への過程等の貴重な体験を意識し、具体的に書きまとめることによって自分自身の人生観、信条、信仰がより明確になることが期待できる。その歩みの旅を、スーパーヴァイザーやグループメンバーと分かち合う。

「カウンセラー課程」受講者は研修会参加第4回目と第5回目に分かち合い、講評を受ける。

研修後に清書原稿(A4 用紙 2 枚程度)を提出する。

[4] 受講中のグループ面接と個人面接

「カウンセラー課程」受講者はスーパーヴァイザーの個人面接は研修会受講の第4回目と第5回目の2回行われる。他の研修会受講の際にはグループ面接が行われる。

[5] 感想文、目標達成確認

なお、研修の感想文と目標達成確認を各科目研修終了時に提出する。

感想文は会報「スピリチュアルケア」誌、ホームページなどで(事前承諾をした方の分のみ)公表される場合がある。

[6] 研修中のブックレポート

第 9 章 参考資料 9-5「ブックレポートの書き方」(p.37)を参照し、研修科目Ⅲ～Ⅴが修了するまでに、「カウンセラー課程」は5冊のブックレポートを作成する。

6-6 カウンセラー課程研修 受講後の課題

「カウンセラー課程」の各必須の研修会を終了した後

[1] 研修受講後の患者訪問と受講後のスーパーヴィジョン

研修中にスーパーヴィジョンを受けた訪問記録とは別に、研修後、訪問記録 6 回のスーパーヴィジョンを受ける。さらに、スーパーヴィジョンを受けない訪問記録 10 回分を直接事務局に提出する。

研修受講中以外の患者訪問は原則的には自己解決であるが、それが困難な場合は、事務局へ相談する。もし、受講後のスーパーヴィジョンを受けたい場合は事務局にお問い合わせください。

「カウンセラー課程」認定のために必要な訪問記録の提出数: 計 22 回

[2] ジャーナルの作成 (任意)

訪問記録の完成後、ジャーナルを書くことを勧める。ジャーナルは、訪問記録の作成および、他の病む人への訪問時、以下の点について記述する。

- a) 訪問した病む人の中でもっとも適切な関わり
 - b) 訪問した病む人の中でもっとも不適切な関わり
- 上記の関わりについて、それぞれ以下の点を明確する。
- ①訪問者の氏名、訪問日時、何回目の訪問
 - ②病む人の氏名(イニシャル)、年齢、性別、病気と主訴、家族関係など、バックグラウンドの紹介
 - ③訪問中「スピリチュアルケア」の観点から試みたことおよび実際に実行したこと
 - ④訪問中「自分の気持ち」の状態

[3] 自己評価の提出

臨床パストラルケア教育を受講した目的が達成されたかどうか述べる

- a) 以下の点についての受講前後の変化
 - ①自己理解に関して
 - ②病む人の理解に関して
 - ③哲学・神学における洞察について
- b) 臨床パストラルケア教育で培ったことの実行計画
- c) 最終評価を A B C D の4段階で評価し、自己採点したその理由
- d) 今後の臨床パストラルケア教育についての要望を記す

[4] 生きている木

「ほんものの自分にチャレンジ」P203 ~ 205 を完成させ、コピーを提出する

[5] ワークブックの完成

ワークブック「聴く耳 みる目 理解する心」の必要ページの記入を完成させて提出する。

6-7 カウンセラー資格認定

(1) カウンセラー資格認定申請

① 申請条件

臨床パストラル・ケアワーカー資格認定申請のために、「ケアワーカー過程」の必須研修科目、受講前、中、後における諸課題ならびに哲学・神学講座をすべて修了していることが必要。

② 申請方法

臨床パストラル・カウンセラー資格認定時期は5月。5月の資格認定申請は3月末までに、臨床パストラル・カウンセラー資格認定申請書に諸種の課題などの必要提出書類を添付して、事務局に申請する。資格認定料 30,000 円。

(2) 資格認定審査

資格認定委員会で審査し、資格認定証の発行をもって認定とする。

認定式は「臨床パストラルケア研究会」で行う。

第7章 ケアワーカー／カウンセラー資格認定の更新

7-1 資格認定の更新

[1] 資格認定更新条件

資格認定後、5年ごとに資格認定更新が必要。更新するためにはフォローアップ研修として下記の最低条件を満たす必要がある。

- ・資格認定者は、いずれかの地域ブロックに属し、登録し、継続的、定期的に臨床ケアをしていることが望ましい
- ・臨床パストラル・ケアワーカーは毎年、①臨床パストラルケア研究会に出席する。②スーパーヴィジョンを2回受ける。
③ 一日研修会に2回出席する。以上の内1つを毎年満たしていること
- ・臨床パストラル・カウンセラーは毎年①臨床パストラルケア研究会に出席する。②スーパーヴィジョンを2回受ける。③一日研修会に3回出席する。以上の内2つを毎年満たしていること。
- ・資格認定後のフォローアップ研修としては、各自に合ったテーマ、方法を選択し、当会に許可を受ければフォローアップ研修とすることができます。
- ・上記資格認定更新の最低条件を満たしていなくても他の経験、実績や課題の実施によって更新可能な場合もあるので詳細は事務局に問い合わせること。

[2] 資格認定更新方法と認定更新料

資格認定申請と同様、5月に認定された人は5年後の3月末までに、11月に認定された人は5年後の9月末までに事務局に自己申告する。

認定更新料は

- ・臨床パストラル・ケアワーカー 20,000円
- ・臨床パストラル・カウンセラー 30,000円

第8章 各研修の内容(シラバス)

8-1 科目 I : 人間関係とコミュニケーション、傾聴

◆人間関係とコミュニケーション

人間は、本質的に他との「関係による」存在であるとともに「関係にある」存在である。十分なコミュニケーションは健全な人間関係を促進する。不十分なコミュニケーションは人間関係を低下させる。健全な統合されている人間関係が目標である。コミュニケーションはこのような人間関係を築く手段であり、目標ではない。

ねらいは

- ・人間存在に基本的な、すなわち哲学的・信仰／宗教的(神学的)＝スピリチュアルな、基盤の理解を深める
- ・自分自身・他者・自然・超自然存在との関係は、人間存在の不可欠な基礎と条件であることの理解
- ・ コミュニケーションは人間関係が成り立つ手段であることの理解
 - ・基本的なコミュニケーション SKILLS の紹介および適切なトレーニング

◆傾聴の哲学的、神学的および心理学的な側面

人間は、基本的に「受け取る存在」として考えられる。人間の存在そのものと生命は人間自身が取得できるものではなく、他力(親、自然、超自然、神)によるもの、つまり与えられたものである。傾聴即ち耳を傾ける方向は自己以外のものであり、聴かれたことも他者／自己以外のものによるのである。人間のアイデンティティー(名前を含む)は他者に呼ばれたこと＝「VOCATION 使命」の結果である。

傾聴は、人間関係および人間のコミュニケーション(意思の伝達)における要の石である。正確で十分な傾聴は健全で統合された人間関係を育成させるが、不十分な傾聴はコミュニケーションを低下させ、病的な人間関係を作り上げる。

ねらいは

- ・人間の状態とその神秘を(再)認識や(再)確認すること。
- ・傾聴は人間存在の哲学的・宗教的／神学的(宗教的)な基礎であることの理解。
- ・傾聴の物質的基礎である「耳」の理解および心理学的な技法、特に正確な応答法を取得すること。

概要

1. 人間の本質、即ち「関係における存在」
2. 4つの関係:自分自身、他者、自然および超自然との関係
3. 人間は「聴き取る存在」つまり「受け取る被造物」
4. 聴く態度を構成する要素:「今」「ここ」「自分」「eye contact」「反復」
5. パーソナリティの理論と自己防衛機構

6. 傾聴における5つの次元
7. 「聞く」ことと「聴く」こと
8. 傾聴による3つの人間のタイプ
9. 「名前」
10. Tomatis 理論、「Effet Tomatis トマトリス効果」
11. 見ること
12. Feeling

8-2 科目Ⅱ：価値観の明確化

健全な人間関係は「本物」であろうとする人間から成り立つ。「本物」の人間は堅実なアイデンティティを持つ存在である。アイデンティティそのものは他者・社会・環境などによって影響されることなく、自分自身の中で聴き取った価値観によって形成される要素である。不確かな価値観は不健全な迷いの原因となることがある。

ねらいは

- ・ 価値観の多様な社会において自分の価値観を明確にすることである。
- ・ 自分の価値観を知ることは自分自身のアイデンティティや人生の目標をも明確にするきっかけになり、「本物」の人間を生み出す。
- ・ 人間は「本物」になって初めて尊敬に基づいた、健全な成長をもたらす人間関係(社会そのもの)を進展させていくことができる。
- ・ スピリチュアルケアを提供する時に、ホスト(H)が自分自身の価値観を把握してなければ、無意識に自分の価値観をゲスト(G)―患者さん―に当てはめるおそれがある。

概要

1. 価値・価値観の書類
2. 価値と価値観
3. 価値観は人によって異なっている
4. 手段と目的
5. 生きる理由、死ぬ理由
6. 日常の生活
7. 長所と価値観
8. 価値観が変わる
9. 命の木

8-3 科目Ⅲ：スピリチュアルケア(内容については旧研修Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ)

人間は身体と知性、感情と情緒の育成と同様に心・霊・魂の育成を必要とする。心・霊・魂のウェルビーイング（健康）は身体と知性、感情と情緒のウェルビーイングと同様に病的状態から回復させるための的確な専門的ケアを必要とする。そのようなケアのためには、心・霊・魂の理解が不可欠な条件である。

ねらいは

- ・人間の理解
- ・人間の次元の理解
- ・スピリット・スピリチュアルの理解
- ・スピリチュアルな人格の理解
- ・患者訪問の基本的なことの取得

そのために講義やワーク、患者訪問の実習および訪問記録作成とグループにおける訪問記録検討会を実施する。

概要

1. WHO のスピリチュアルな痛みと叫びに関する指摘
2. スピリット・スピリチュアル
3. 人間の定義
4. 「霊 SPIRIT」の存在
5. スピリチュアルな次元
6. スピリチュアルな人格の定義
7. 患者訪問について

スピリチュアルな痛みと叫び

痛みはさまざまな形で存在しその痛みの質はそれぞれ違っている。身体的、知的、あるいは社会的な痛みは弁えやすいのに対して、心理的や心・^{スピリチュアルな}霊・魂の痛みは把握し難くそのケアは微妙な行為である。そのためには心・霊・魂に基づく生き方の体験が必要不可欠な条件である。自己の存在そのもの、人生の意義や意味、人生に伴う苦痛・疾病や死、天職(ライフワーク)や使命感、自己の価値と価値観、社会観や歴史観などから生じてくる困難や苦痛は多様である。日常生活ではこうした痛みが意識に登らないことが多いが、重い病気に罹ったり、病が終末期になったりした時には、そのような痛みを感じることが多いだろう。

ねらいは

- ・痛みとその叫びの意識化
- ・痛み自体の存在とその意味を知ること
- ・多様な痛みの区別ができること
- ・自他の心・^{スピリチュアルな}霊・魂の痛みの主な原因の把握
- ・心・^{スピリチュアルな}霊・魂の痛みの取り扱いと対面する態度
- ・痛みコントロールと癒しの区別を把握すること

である。

概要

1. 痛みとその叫びの意識化
2. 痛み自体の存在とその意味を知ること
3. 多様な痛みの区別ができること
4. 自他の心・^{スピリチュアルな}霊・魂の痛みの主な原因の把握
5. 心・^{スピリチュアルな}霊・魂の痛みの取り扱いと対面する態度
6. 痛みコントロールと癒しの区別を把握すること
7. スピリチュアルアセスメント

スピリチュアルケア

人間は身体や知性、感情と情緒などの育成と同様に心・霊・魂の育成は欠くことができない。心・霊・魂のウェルビーイング(健康)は身体や知性、感情や情緒のウェルビーイングと同様に悪化することがあり、その回復には的確な専門的ケアが必要とされる。

ねらいは

- ・スピリチュアルケアの内容とその必要性
 - ・臨床パストラルケアの由来・内容および必要性
 - ・スピリチュアルケアは専門職であること
 - ・スピリチュアルケアを提供する人のスピリチュアルな人格の確認と育成
 - ・患者訪問の基本的なこと
- を把握することである。

概要

1. スピリチュアルケア
2. 臨床パストラルケアにおける欧米と日本の状況
3. 臨床パストラルケア(=スピリチュアルケア)は専門職である
4. スピリチュアルな人格の定義
5. 患者訪問について

8-4 科目IV: 哲学・宗教・神学的人間論(内容については旧研修VI・VII)

植物や他の動物と異なり、人間として生きるためには明確な哲学をもつことが不可欠条件である。意義のある人生を送るために、人間は自分自身の長所と価値観(アイデンティティ、使命や人生の目標を含む)を知るべきである。長所は無限ではなく、自分自身の価値観を追及するために与えられているものであり、そのために使うべきである。

価値観を追及することは自己実現へと導かれる。自己実現は自己中心的なものではなく利他的である。人間の存在は他者(他力)によるのであり、人間の生きる意義(目標)は他者に命を与え、その命を育成することにある。

生きることは成長することであり、成長することは変わることであり、変わることは苦しむことを伴う。成長すればするほど苦痛は多くなる。本物の人間になることは、よく変わり、よく苦しむ過程である。苦痛なしに成長はない。死ぬことおよび死は、新しい命(生き方)への成長の最後の段階として考えられている。

不明瞭や不確実な人生の目標は、本物でない人生および病気へと導かれる原因になる。

ねらいは、

- ・人間存在の基本的な、哲学的＝スピリチュアルな基盤の理解を深める
- ・自己の人生の意義および目標を(再)確認すること
- ・哲学的な側面:人間の状態、生きる・存在と人生の意義、困難や苦痛、死ぬことと死の意味を探る
- ・核を生きること・核から生きること

概要

1. 生命・人間の状態
2. 人生の意義や目標
3. 人生観・社会観・世界観や歴史観
6. 人間成長
7. 苦難と苦痛
8. 死ぬことと死
9. 自己の哲学・人間学

神学的・宗教的人間論

固有な宗教をすべての人々が持っていないかも知れないが、一人ひとりは何か(だれかを)信じているという仮説の上に立つ。祈ることや礼拝はその人それぞれの信仰の表現である。健全な信仰や宗教を持ち続けるために、時には、その信仰、信条や宗教を迷信ではないかと(再)確認する必要がある。長い目でみれば、迷信はスピリチュアルな健康を損なうものだからである。

信仰の有無に関係なく、無神論者や不可知論者でも、人間は何らかの超自然的存在を考えて(信じて)いると言えよう。

超自然の存在(神)を信ずる者にとって、罪とその赦し、救いあるいは滅び、復活や輪廻、自己存在の継続であるか終焉かなどは、日常生活において、殊に病気になったような時に人の心に強い影響を与える要素である。不明確な信仰はスピリチュアルな健康に害を与えられられる。

ねらいは、

自分自身の信条や信仰を(再)確認することである。

概要

1. 信仰・信条

2. 現実を生きること
3. 信頼と信仰
4. 殉教
5. 宗教
6. 迷信
7. 宗教的ニーズ
8. 超自然の存在(神)
9. 罪と罪の赦し
11. 救いおよび復活
12. 儀式
13. 自己の神学

8-5 科目V:心理学・哲学・宗教・神学的人格の統合

健康とは、身体、精神、心と魂の全人的な統合であると定義される。すなわち、健康は身体的、心理的、社会
 的およびスピリチュアルな次元の統合である。それらの分裂は健康の破壊となり、痛みや病いの源となる。

ねらいは、

一人ひとりの人格の統合を促進することである。

概要

1. 人生はパズル、人生の目標は人格の統合。統合は静的ではなく、ダイナミックである
2. アイデンティティはケアの核
3. 成長の種類：
 - 知性の発達・成長論(J・ピアジェ Piaget)
 - 性的発達・成長(S・フロイト)
 - 心理・社会的発達・成長(E・エリクソン)
 - 自己実現論(A・マズロー)
 - 死への最後の成長(E・キューベラー・ロス)
 - ハンディを越える発達・成長(E・シューハート)
 - 信仰の発達・成長
 - スピリチュアルな発達・成長(W・キッペス)
4. 統合 integrity は発達・成長のクライマックス
5. 「I am broken」を再認識することと尊厳死

第9章 参考資料

9-1 問い合わせ先・各種申し込み先

[1] 研修の申し込み先及び、提出資料提出先

臨床パストラル教育研究会 事務局

〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜4-4-36 山下方

TEL 080-4356-3911 / FAX 0467-24-5383

[2] 研修に関する情報の入手方法

各研修の詳細や具体的な日程等は、当会機関紙およびホームページで告知されます。また、電話やメールでも問い合わせを受け付けております。研修は年度の途中で追加・中止・変更がある場合がありますので、最新の情報をお確かめください。

・当会機関紙

「スピリチュアルケア」掲載

[4] 実習病院所在地

・社会医療法人 栄光会 栄光病院 〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西三丁目8番15号

・社会福祉法人 聖嬰会 熊本イエズスの聖心病院 〒860-0079 熊本県熊本市上熊本2-11-24

・社会福祉法人 慈生会ベトレヘムの園病院 〒204-0024 東京都清瀬市梅園3-14-72

・非営利活動法人 ホッとスペース中原 〒211-0041 神奈川県川崎市中原区下小田中1-19-21

(実習病院は変更されることもありますので研修ごとに確認すること)

9-2 研修担当者

講師： 大山悟、盛 克志、石田了久、小栗洋慶、加藤理人、清田正人、鈴木育三、
深谷美枝、安田裕子、山下清美 他

スーパーバイザー： 大山悟、盛 克志、泉 キリ江、石田了久、清田正人、深谷美枝、安田裕子
山下清美 他

(講師、スーパーバイザーは変更されることがある)

9-3 教材

[1] 研修会使用教材

各研修会では以下の教材を使用しますので、事前に入手しておいてください。入手方法については、次表を参照してください。

研修会使用教材一覧表

教材・書籍	科目 一	科目 二	科目 三	科目 四	科目 五	科目 六	科目 七	科目 八	科目 九
スピリチュアルケア	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ともに生きる・人間関係とコミュニケーション	○	○					○	○	○
聴く耳・みる目・理解する心	○								
臨床パストラルケア訪問記録			○	○	○	○	○		
ほんものの自分にチャレンジ - 価値観の明確化 -		○							
道		○					○	○	○
がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア			○	○	○				
心と魂の叫びに答えて 1					○				
心と魂の叫びに答えて 2					○				
心と魂の叫びに答えて 3				○					
心と魂の叫びに答えて 4			○			○			
成長									○
成熟したイエズスの宣教者の育成									○

※教材は変更になることもある。各科目の受講申し込み後に予習表をお送りしますので、そのつど確認ください。

[2] 教材の入手方法

教材の一部は一般の書店およびインターネットで購入することもできる。

9-4 提出物について

研修中の指示に従い、提出物はパソコンで入力し(原則「Microsoft Word」)。それ以外はテキスト形式で、PDFにして事務局にメールにてご提出ください。なおパソコン入力できない方は、事務局にご相談ください。データには、記録内容、作成年月日、氏名、研修生の場合は研修生番号を明記してください。

9-5 ブックレポートの書き方

[1] 作成の仕方 以下の作成の仕方に従って提出する。

- 1) 次の内容を記入した表紙をつける。領域:○分野、書名:△、著者名:○、出版社名:◎、発行年:○年、レポート作成者名:x レポート作成日:20XX年Y月Z日
(注)どの本についてレポートを書くかを前もって事務局(p34)に伝えて、適当かどうか確認しておくことが望ましい。別冊のリーディングリストは単に参考例にすぎない。

■ブックレポートの構成

1) テーマ

著者が考えているその本の「テーマ(主題)」を書く。その本の題名が必ずしもテーマを表していないことが多い事に注意

2) 要旨

著者が「テーマ」について述べている概要を書く。すなわち、そのテーマについての著者の意見、思想、主張、考え方などを2~3行(最大限5行)でまとめる。

3) 内容

内容を自分の言葉で紹介する。その際、本の中の文章を引用する場合は(P5、L2-3)のように必ず引用ページと行を記入する。この内容紹介の中にレポート作成者の意見や感想は入れない。どんな大部(例えば1,000ページ)の本でも、内容の紹介はA4版4ページ(5,000字程度)を超えないことが望ましい。

最大限7ページ以内を厳守。

4) 感想

最後に本を読んだ上でのレポート作成者の意見・感想を加える

ブックレポートは患者訪問記録と同じような意味を持つものと考えて書いてください。すなわち、訪問記録とブックレポートは以下のように並行して考えられる。

- ① 患者さんの話を傾聴する = 本の内容を十分に掴む
 - ② 患者さんが言いたいこと = 本のテーマについての著者の主張、思想
 - ③ 会話記録を書く = 本の内容を正確にかつ簡潔にまとめて書く
 - ④ 訪問でH(ホストケアワーカー)の感じたことを書く = 読後の意見・感想を書く
- ※ 作成例を読みたい場合はホームページをご参照下さい。

別紙

下記の各種申込書等は別紙印刷されたものがありますので、事務局にお尋ねください。

別紙1 臨床パストラルケア研修会 受講申込書

別紙2 資格認定課程 選択通知書

別紙3 資格認定研修会受講契約書(科目Ⅰ～Ⅴ用)一般研修会Ⅰ,Ⅱ用受講契約書

別紙4 資格認定申請書

別紙5 リーディングリスト



別紙 1(科目 I ~ V 用)

(コピーの上利用します)

臨床パストラルケア研修会受講申込書 (参加 回目)

私は _____ (場所、例、〇〇病院)で

_____ 年 月 日から _____ 年 月 日までの

臨床パストラルケア教育研修会科目 _____ の受講申し込みをします。

申込年月日 年 月 日

〒 _____

ふりがな

住 所 _____

TEL: _____ () _____ 、FAX: _____ () _____

Eメールアドレス: _____

ふりがな
氏名

印

生年月日

19

日

日生

(男・女)

FAX
0467-24-5383
又はメール
pastoral1998@nifty.co

別紙 2 研修会40日前までに必ずお申込下さい。

資格認定課程選択通知書

私は(A) 臨床パストラル・カウンセラー資格認定課程

(B) 臨床パストラル・ケアワーカー資格認定課程

を選択いたします。(該当するものに ○ 印をつけます)

私は既に、下記の当会の研修会を受講しています。(該当するものに ○印)

- | | | |
|-------------------------------------|---|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ・1日研修会(回) | <input type="checkbox"/> ・オリエンテーション・ワークショップ | <input type="checkbox"/> ・ケアと法律 |
| <input type="checkbox"/> ・研修会 I | <input type="checkbox"/> ・研修会 II | |
| <input type="checkbox"/> ・哲学・神学養成講座 | <input type="checkbox"/> ・その他(_____) | |

今後の事務業務が潤滑に行われるためにお知らせ致します。

年 月 日

ふりがな
氏名

〒 _____

ふりがな

住 所

TEL: —()— 、FAX: —()—

Eメールアドレス:



別紙 3 資格認定研修会受講契約書(科目 I ~ V 用) 初回のみ提出します

臨床パストラルケア研修会受講契約書

臨床パストラル教育研究会 代表様

私、_____ は、この研修会を受講するにあたり、以下の事を理解し、守ります。

- 1、 研修会は個人の心理療法ではないことを知っていますし、また現在、心理療法、精神療法を受けていません。また、精神的疾病の治療を受けたことがないですし、認知機能は良好、近親者との死別6ヶ月以内ではありません。
- 2、 研修会の目的は、人間として、又、臨床パストラル・カウンセラーとして成長することです。従って、本研修会中で、スーパーヴァイザーや他の受講生、及び研修会の場で出会う人々との関わりはその為であり、また、臨床実習先では病院・施設の規則を厳守し、指導が伴うことがあります。
- 3、 研修会中に知り得たプライバシーに関する事柄は、研修会外には口外しないこと。又、本研修会と関係のない機関、人などに持っていかないことを守ります。
- 4、 研修会中作成した訪問記録は、個人情報保護法を遵守した上で、教材、資料として使うことを承諾します。
- 5、 各研修コースを修了しても必ず認定できるとは限られていないことを了承します。

年 月 日

署 名

印

生年月日 年 月 日生 (歳)

FAX
0467-24-5383
又はメール
pastoral1998@nifty.co

別紙 4

臨床パストラル・カウンセラー資格認定 申請書

私は臨床パストラル・カウンセラー資格認定課程を修了しましたので、提出課題を添えて申請をします。

申請年月日 年 月 日

〒 _____

ふりがな

住 所 _____

TEL _____ FAX _____

E メールアドレス _____

会員番号: B- _____

ふりがな _____

氏 名 _____

印

READING LIST

課題「ブックレポート」用の書籍リスト

臨床パストラル・ケアワーカー課程の方は下記 5 領域のそれぞれから三冊別々の領域から選ぶ、当会「臨床パストラルケア研修会案内」冊子の「ブックレポートの書き方」を参照して 3,000 字以上 5,000 字以内に纏めて提出。臨床パストラル・カウンセラー課程の方は各領域から1冊ずつ合計 5 冊についてレポートを提出すること。下記のリストに挙げられた書籍は出版物の中からの一例に過ぎないので、この他の本は図書館やインターネットなどで「パストラルケア」、「スピリチュアルケア」、「生と死」「カウンセリング」「心理学」などのキーワードで検索して、レポート用の書籍を選択する事は自由です。但し、下記リスト以外の本を選択しようとする場合には、レポートを書く前に事務部にその本がレポート用として適当かどうか問い合わせて下さい。なお、書籍は絶版になっていたりして手に入れにくい場合もありますが、各種図書館が所蔵している場合もあるので各自調べて下さい。

領域(1) 人間理解 哲学 宗教等

下記リスト以外にも、M・ブーバー、M・ハイデッガー、D・ボンヘッフアーなどの書籍も勧められる

著 者	題 名	出版社
V・E・フランク 山田邦男 訳	意味への意思	春秋社 2002
V・E・フランク 山田邦男・松田美佳 訳	苦悩する人間	春秋社 2004
V・E・フランク 山田邦男・松田美佳 訳	それでも人生にイエスと言う	春秋社 2004
V・E・フランク 山田邦男 訳	意味による癒し	春秋社 2004
アントニー・デ・メロ 谷口正子 訳	小鳥の歌	女子パウロ会
ワルデマール・キッペス	病気は人として成長するチャレンジ	弓箭書院 2010
エリザベス・キューブラー・ロス 上野圭一 訳	人生は廻る輪のように	角川書店 1998

エリザベス・マッキンレー他 永田久美子他 訳	認知症とスピリチュアルケア	新興医学出版
鈴木大拙	日本的靈性	岩波文庫
ポール・トゥルニエ 三浦安子 訳	人生の四季	ヨルダン社
リチャード・マクドナルド[抽出] 宮田炳午 訳	世界がもし 100 年の物語だったら	夏目書房
永井隆	平和塔	アルバ文庫
永井隆	長崎の鐘	アルバ文庫
河合隼雄	宗教と科学の接点	岩波書店 1996
清水哲郎監修、岡部健・竹之内裕文編	どう生き どう死ぬか	弓箭書院 2009
柏木哲夫	人と心の理解	いのちのこば社
樋口強	いのちの落語	文藝春秋刊 2005
立川昭二	病の人間学	筑摩書房 1999
E.S. シュナイドマン 白井徳満・白井幸子 訳	死の声	誠信書房
領域(1) 続き		
著 者	題 名	出版社
E.S. シュナイドマン 白井徳満・白井幸子・本間修 訳	死にゆく時	誠信書房
E. キューブラー・ロス 川口正吉 訳	死ぬ瞬間	読売新聞社
E. キューブラー・ロス 鈴木晶訳	続・死ぬ瞬間	読売新聞社 1999
E・S シュナイドマン 白井徳満・白井幸子 訳	自殺者のこころ	誠信書房 2001
Fish S, Shery JA 窪寺俊之、福嶋千恵子 訳	看護のなかの宗教的ケア	すぐ書房 1994
H.J.M. ヌーウェン 佐々木博 訳	友のためにいのちを捨てる	女子パウロ会 2002
ヴェルナー・フート 志村恵 訳	原理主義	新教出版社
テイヤール・ド・シャルダン 美田稔 訳	新訳 神の場	五月書房 2006
テッド・メンテン 宮沢あゆみ 訳	「死んだらどうなるの？ミスター・シリ ー」	人間と歴史社 2000
ホアン・マシア	脅かされるいのち	オリエンズ宗教研究所 2002

ヨースタイン・ゴルデル 須田朗監修・池田香代子 訳	ソフィーの世界	NHK 出版
遠藤周作	死について考える	英文社
乙武洋匡	五体不満足	講談社
秋葉悦子	「人」の始まりをめぐる真理の考察	毎日アースデイ
小俣和一郎	検証 人体実験	第三文明社
松山善三・高峰秀子	典子は、今	潮出版社
上田紀行	生きる意味	岩波新書
朝日俊彦	笑って死ぬために	メディカル出版 2003
日野原重明	生きかた上手	ユーリーグ 2001
鷲田清一	「聴く」ことの本	TBSブリタニカ 1999
アルフォンス・デーケン	よく生き よく笑う よき死と出会う	新潮社
中野孝次	「閑」のある生き方	新潮社
信原幸弘	考える脳・考えない脳	講談社現代新書
パンネンウルク. W	人間とは何か(現代キリスト教思想叢書 14)	白水社
モルトマン. J	人間	新教出版社
ユウゲル. E	死	新教出版社
百瀬文晃	キリスト教の原点	教友社 2004
百瀬文晃	キリストに出会う	女子パウロ会 2001

領域(2) 心理学

下記リスト以外に、S・フロイト、A・マズロー、E・H・エリクソン、E・フロム、C・G・ユングなどの書籍を勧められる

著 者	題 名	出版社
土居建郎	甘えの構造	弘文堂 2001
土居建郎	続「甘えの構造」	弘文堂 2001
土居建郎	甘えと日本人	角川書店 2010
河合隼雄	日本人という病	潮出版社 1998
C.マイヤー、M.オバーマン 岩本隆茂・塚越博史・宮崎みち子・ 森伸幸・勝山友美子 訳	わが子を殺す母親たち	勁草書房 2002
M. ジェイムス 深沢道子 訳	突破への道	社会思想社 1984
エイブラハム・J. ツワルスキー	いいことから始めよう	新潮社
ジョン・パウエル	なぜ、自分を知らせるのを恐れるのか	女子パウロ会
トーマス・N・ハート 佐藤みさほ 訳	キリストのように聴く The Art of Christian Listening	サンパウロ
ドナルド・G・ダットン、スーザン・K・ゴラ ント 中村正 訳	なぜ夫は、愛する妻を殴るのか？	作品社 2001
桂戴作	心身症患者学入門	合同出版 1982
杉田峰康	こじれる人間関係	創元社 1983
藤井あけみ	チャイルド・ライフの世界	新教出版社
白井幸子	看護に生かす交流分析	医学書院 1983
杉浦 京子	臨床心理学講義	朱鷺書房 2002
斉藤 勇	図説心理学入門	誠心書房 2005
片田 秀	心はなぜ苦しむのか	毎日新聞社 1996
河合 隼雄	コンプレックス	岩波新書 1971
成田 義弘訳	パーソナリティー障害の診断と治療	創元社
高橋 哲郎	子どもの心と精神病理	岩崎学術出版
河合 隼雄	無意識の構造	中公新書
丸田俊彦	痛みの心理学	中公新書
神庭重信	心と体の対話	文藝春秋
ヒュー・プレイサー 中川吉晴訳	わたしの知らないわたしへ	日本教文社
諸富祥彦	自己成長の心理学	コスモ・ライブラリー

領域(3) カウンセリング

著 者	題 名	出版社
イアン・スチュアート他 深沢道子 訳	TA TODAY	実務教育出版
大住 誠	ユング派カウンセリング入門	ちくま新書
ジョセフ・オコナー他 橋本敦生 訳	NLP のすすめ	チーム医療
ジョン・プレストン 岩坂 彰 訳	心の痛みのセルフコントロール	創元社
ナラモア	クリスチャンカウンセリングの実際	いのちのことば社
平木典子	カウンセリングの話	朝日新聞社
山本次郎 高野雅司訳、諸富祥彦解説	カウンセリングの実技がわかる本	コスモスライブラリー (1999/07)
ロロメイ	新カウンセリングの技術	岩崎学術出版 1992
永田勝太郎	実存 カウンセリング	駿河台出版社
河合隼雄	カウンセリングを語る上、下、	創元社
河合隼雄	カウンセリングの実際問題	誠信書房
国谷誠朗	孤独よさようなら	集英社
国分康孝	カウンセリングの技法	誠信書房
国分康孝	カウンセリングの理論	誠信書房
三永恭平	こころを聴く	日基教団出版局
水島恵一	カウンセリングを学ぶ	有斐閣
白井幸子	看護にいかすカウンセリング	医学書院
森 隆夫	こころの病気	経営書院
吉田 修二	思春期・こころの病	高史研
下園 壮太	自殺の危機とカウンセリング	金剛出版
河合 隼雄	河合隼雄のカウンセリング入門	創元社
河合 隼雄	河合隼雄のカウンセリング講座	創元社

領域(4) スピリチュアルな事柄

著 者	題 名	出版社
H.S. クシュナー 日野原重明・斉藤武 訳	ふたたび勇気をいだいて	ダイヤモンド社
H.J.M.ヌーウェン 西垣二一・岸本和世 訳	傷ついた癒し人	日本基督教団出版局 2000
R.ベレス 小田博志・二村・エッケルト敬子 訳	がんを超えて生きる	人文書院 1999
V. E. フランクル 池田香代子 訳	夜と霧	みすず書房 2002
井上ウィマラ	人生で大切な五つの仕事	春秋社 2006
ウワディスワフ・シュピルマン 佐藤泰一 訳	戦場のピアニスト	春秋社 2003
エリザベス・キューブラー・ロス アグネス・チャン 訳	タギーへの手紙 (A Letter to a Child with Cancer)	佼成出版社 2001
ナヴィン・チャウラ 三代川律子 訳	マザー・テレサ	日本教文社 2005
ベック・ウェザース、ステファン・ミショー 山本光伸 訳	死者として 残されて(Left of Dead)	光文社 2001
ヘンリー・ナーウェン 小淵春夫 訳	愛されている者の生活	あめんどう 1999
星野富弘	愛、深き淵より。	学習研究社 2006
ウォルデマール・キッペス	病気になっても病人にはなるな	ユニカラー 2007
山崎章郎	病院で死ぬということ	主婦の友社 平成2年
沼野尚美		
平山高明司教監修	いのちの輝き	くすのき出版 2002
樫尾直樹	スピリチュアル・ライフのすすめ	文藝春秋
上原久美子・上原一治	踊りながら 私はいこう	南方新社
泉キリ江 平山高明司教監修	愛されて生きる	くすのき出版 2001
杉園佐智子	芽ぶいた木々の間から	健友館
大江健三郎	個人的な体験	新潮文庫
日野原重明・星野富弘	たった一度の人生だから	フォレスト・ブックス 2007
白井のり子	典子 44 歳 いま、伝えたい	光文社
勉誠出版	アジアのスピリチュアリティ	勉誠出版
野村祐之	輝いて もっと輝いて	TECHNO COMMUNICATIONS

領域(5) ケア

著 者	題 名	出版社
G・L・シツター 朝倉秀之 訳	愛する人を失うとき	教文館 2002
パトリック・テリエ 日仏医学会監修、濱田野依・濱田裕子 訳	軌跡認定医が語る ルルドの癒しと軌跡	サンパウロ 2005
ミルトン・メイヤーロフ ロバート・A・ニーメヤー 鈴木剛子 訳	ケアの本質 <大切なもの>を失ったあなたに	ゆみる出版 1987 春秋社
岡安大仁 山下京子	ターミナルケアの原点 彩花へ「生きる力」をありがとう	人間と歴史社 2001 河出書房新社
松本信愛 清水哲郎・島藺進編集	患者と家族の心のケア ケア従事者のための死生学	近代文藝社 1996 Nouvelle Hirokawa
斉藤武 村田久行	なぜ私だけが苦しむのか ケアの思想と対人援助	岩波現代文庫 2008 川島書店 2002
伊藤高章	スピリチュアルケアを語る	関西学院大学キリスト教と文化研究センター 2004
カール・ベッカー編著 窪寺俊之	生と死のケアを考える スピリチュアルケア入門	法蔵館 2000 三輪書店 2000
窪寺俊之	スピリチュアルケア学概説	三輪書店 2008
窪寺俊之	スピリチュアルケア学序説	三輪書店 2004
窪寺俊之、井上ウヰマラ	スピリチュアルケアへのガイド	青海社 2009
小俣和一郎	スピリチュアル・ケアと精神障害	臨床パストラルケア教育研修センター 東京ブ ロック
藤井理恵	たましいのケア	いのちのことば社 2000
柏木哲夫	死にゆく人々のケア	医学書院
松本信愛他 日本死の臨床研究会編	スピリチュアルケア スピリチュアルケア	NPO 法人スピリチュアルケア東京 人間と歴史社 2003

参考書

著 者	題 名	出版社
人間理解		
フライコミュニケーションズ企画・構成 南風椎 訳	あとに残された人へ 1000 の風	三五館 2003
永井隆	いとし子よ	アルバ文庫
実存思想協会編	死生(実存思想論集 13)	理想社 1998
中島力編著	生命(いのち)なりけり	心交社 2003
吉本隆明河合隼雄 押田成人・山折哲雄(聞き手)対談集	思想としての死の準備	三輪書店 1993
河合隼雄・柳田邦男共同編集	死の変容	岩波書店
誠和会ホスピス検討委員会	こころのケア	海鳥社
新井満	千の風になって	講談社
V. E. フランクル 山田邦男 編	フランクルを学ぶ人のために	世界思想社 2002
島菌進	宗教学の名著30	ちくま新書
京都文教大学「宗教と癒し研究会」編	宗教と癒し	三五館 2000
島菌進	宗教学の名著	ちくま新書 2008
島菌進・葛西健太・福嶋信吉・藤原聖子編	宗教学 キーワード	有斐閣 2006
日本カトリック司教団	いのちへのまなざし	カトリック中央協議会
ジャン・ピアジェ 中垣啓 訳	ピアジェに学ぶ認知発達の科学	北大路書房
ローレンス・コールバーク 岩佐信道 訳	道徳性の発達と道徳教育	麗澤大学出版会
カウンセリング		
講座現代キリスト教カウンセリング全3巻 成田義弘 監訳	講座現代キリスト教カウンセリング全3巻 パーソナリティー障害の診断と治療	日本基督教団出版 2002 創元社
高橋哲郎	子どもの心と精神病理	岩崎学術出版社
河合隼雄	無意識の構造	中公新書
スピリチュアルな事柄		
石川拓治	奇跡のリンゴ	幻冬舎
窪寺俊之	スピリチュアルケアとQOL日本緩和医療学会	三輪書店 1997
E. スタウファー 国谷誠朗他訳	無条件の愛とゆるし	誠信書房 1990
赤星進	心の病気と福音 上、下	ヨルダン社
ラリー・ドッシー 社 1995	森内薫	癒しのことば 春秋

参考書 スピリチュアルな事柄(続き)

著 者	題 名	出版社
ウォルデマール・キッペス監修 関谷英子 訳	NHS におけるスピリチュアルケア	NHS 連合
ポケット・オラクル 6 南風椎 訳	あとに残された人へ	三五館
サン・テグジュペリ 内藤濯 訳	Le Petit Prince 星の王子さま	岩波書店 2003
黒丸尊治	がんばらず、あきらめない がんの緩和医療	築地書館 2005
原野文子	聖心・唯識	臨床パストラルケア 教育研修センター1999
新山恒彦	胆管がん放浪記	毎日新聞社 2004
ジャヤ・チャリハ&エドワード・レ・ジョリー編 いなますみかこ 訳	マザー・テレサ 日々のことば	女子パウロ会
山下京子	彩花がおしえてくれた幸福(しあわせ)	ポプラ社
星野富弘	<花の詩画集>速さのちがう時計	偕成社 2005
ウォルデマール・キッペス	ロンドンホスピス研修旅行の報告	聖マリア学院紀要 Vol.11.1996.12.31

ケア

山室誠編著	緩和ケアテキスト	中外医学社 2002
淀川キリスト教病院	ホスピス編ターミナルケアマニュアル第3版	最新医学社 1997
山下京子 東晋平構成	彩花へ、ふたたび あなたがいてくれるから	河出書房新社

備考 医学・医療機関

著者	題名	出版社
小俣和一郎	精神医学の歴史	第三文明社 レグルス文庫 253
R. スピッツァー 大原健士郎監訳	DSM-IIIによる	金剛出版 1987
J. マスターソン 成田善弘他訳	青年期境界例の治療	金剛出版 1979
下稲葉康之、下稲葉かおり	癒し 癒されて	いのちのことば社 フォレストブックス
季羽倭文子他監修	がん看護学	三輪書店 1998
J. マスターソン 作田勉他訳	青年期境界例の精神療法	星和書店 1982
エリザベス・マチウ・リーデル フィリップ・グロード訳	泣かないで、わたし死ぬのは寂しくないか ら	女子パウロ会 2001
久間圭子	医療の比較文化論	世界思想社 2003
ハロルド G・コーニック 杉岡良彦訳	スピリチュアリティは健康をもたらすか	医学書院
加藤眞三	患者の生き方	春秋社
林素子	エイズ病棟	講談社

研修会テキスト

著 者	題 名	出版社
ウォルデマール・キッペス	スピリチュアルケア	サンパウロ 2010
ウォルデマール・キッペス	ともに生きる	サンパウロ 2003
ウォルデマール・キッペス	ほんものの自分にチャレンジ	サンパウロ 2001
ウォルデマール・キッペス	スピリチュアルな痛み	弓箭書院
世界保健機関編 武田文和 訳	がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア	金原出版 1994
ウォルデマール・キッペス	臨床パストラルケア 訪問記録	
ウォルデマール・キッペス	聴く耳 みる目 理解する心 傾聴訓練 Workbook	イースト朝日 2009
ウォルデマール・キッペス	道	レデンプトール会 1998
ウォルデマール・キッペス	成長	
ウォルデマール・キッペス	成熟したイエズスの宣教師の育成	
ウォルデマール・キッペス	感謝	石英社 1998
ウォルデマール・キッペス	患者に対するパストラルケア	聖マリア学院紀要 Vol.11. 1996.12.31
ウォルデマール・キッペス	自由	石英社 2001
臨床パストラルケア教育研修センター編	心と魂の叫びに答えて	サンパウロ 2001
ウォルデマール・キッペス編	心と魂の叫びに答えて2	サンパウロ 2002
ウォルデマール・キッペス編	心と魂の叫びに答えて3	サンパウロ 2004
ウォルデマール・キッペス編	心と魂の叫びに答えて4	サンパウロ 2006
臨床パストラル教育研究センター	心と魂の叫びに答えて5	特定非営利活動法人 臨床パストラル教育研究センター2021

ブックレポートの作成

研修会受講前や受講後のブックレポートをどのように書いたら良いのかと迷われる方が多くおられます。ここに示した「ブックレポートの作成の仕方」とともに参考として「手本になるブックレポートの例」（別冊 8 ページ）（これは電子メールでのみ配布可能）がありますので参考になさってください。

「ブックレポートの作成の仕方」

- 1) **テーマ：** 著者が考えているその本の「テーマ（主題）」を書く。その本の題名がテーマを必ずしも表していないことが多いことに注意。
- 2) **要旨：** 著者が「テーマ」についてその本で述べている「要旨」、すなわち、そのテーマについての著者の意見。思想、主張、考え方などを 2～3 行以内（最大 5 行程度）に纏める。
- 3) **内容：** 本の内容をまとめる。内容をできるだけ自分の言葉で紹介する。
その際、ほんの中の文章を引用する場合は(P. x x x)と必ず引用ページを記入する
この内容紹介の中にレポート作成者の意見や感想は入れない。大部の本でも、内容の紹介は B5 版 5～6 ページを超えないことが望ましい。最大限 10 ページ以内を厳守。ただし、どんな大部の本でも、内容の一部を省略するようなことはせず、全体を正確に把握して第三者が読んでわかるように記載して伝える。
- 3) **感想：** 最後の本を読んだ上でのレポート作成者の意見・感想を加える。

以上、ブックレポートはほんの読後感だけを求めているのではないことを認識して下さい。

ブックレポートは患者訪問記録と同じような意味をもつものと考えて書いてください。すなわち訪問記録とブックレポートは以下のように並行して考えられる。

- ・ 患者さんの話を傾聴する = 本の内容を十分につかむ
- ・ 患者さんが言いたいこと = 本のテーマについての著者の主張、思想
- ・ 会話記録を書く = 本の内容を正確に且つ簡潔にまとめて書く
- ・ 訪問でのホストが感じたことを書く = 読後の意見・感想を書く

ブックレポートの表紙作成例 ※次の内容を記入した表紙をつける。

用紙: B5版 字のポイント: 11ポイント

ブックレポート 領域 人間理解 等

書名: 友のためにいのちを捨てる{奉仕者の霊性}

著者名: ヘンリ・J・K・ナウウエン

出版社: 女子パウロ会

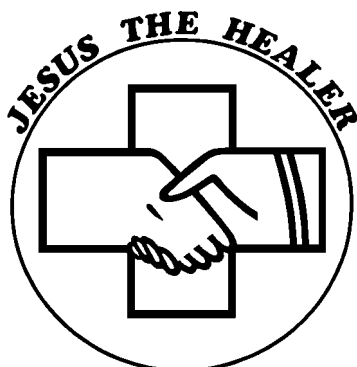
発行年: 2002年

レポート 作成者名: OO OO

レポート作成年月日: 20XX年Y月Z日

- 1) テーマ: 奉仕職活動における奉仕者の霊性
- 2) 要旨: 奉仕職の活動の中で「いのち」に深いまなざしを注ぎ、自分の弱さを恐れず友のために自分を提供しようとする心のあり方を考察。
- 3) 内容 別紙に記入

ロゴマークの意味



「**JESUS THE HEALER 癒すイエス**」は傷付けられている者です。
向かって左の手は、傷付けられているイエスの手です。その傷のある手で癒します。
病んでいる者と同じ人間同士であることを現しています。
癒す者も傷・病の体験を持っているので、病む方と共感することができます。
それがスピリチュアルケアの基本です。

つなぎ合う手と後ろの長方形で十字架を表現しています。
十字架は犠牲・困難・痛み of 象徴・シンボルです。
癒しは犠牲・困難を通して形成されるものです。
スピリチュアルケアは、健康な人と病む人との相互の交流です

臨床パストラルケア 研修会案内(2023年度版)

発行日 2023年4月
発行者 臨床パストラル教育研究会
編集・印刷 事務局



発行所 臨床パストラル教育研究会
〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜 4-4-36

電話 : 080-4356-3911 FAX : 0467-24-5383